

1. 件名：「浜岡原子力発電所3号機及び4号機の地震等に係る新基準適合性審査に関する事業者ヒアリング(106)、(139)」

2. 日時：令和3年5月12日（水）13時30分～15時30分

3. 場所：原子力規制庁9階耐震会議室

4. 出席者（※：TV会議システムによる出席）

原子力規制庁：内藤安全規制調整官、熊谷管理官補佐、佐口主任安全審査官、海田主任安全審査官、谷主任安全審査官、菅谷技術調査官、磯田係員、松末技術参与、杉野首席技術研究調査官、道口技術研究調査官

中部電力株式会社：原子力本部 原子力土建部 執行役員

中川原子力土建部長 他11名※

5. 自動文字起こし結果

別紙のとおり

※音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

6. 提出資料

- ・ 浜岡原子力発電所 基準津波の策定のうちプレート間地震の津波評価について（コメント回答）
- ・ 浜岡原子力発電所 基準津波の策定のうちプレート間地震の津波評価について（補足説明資料）
- ・ 浜岡原子力発電所 基準津波の策定のうちプレート間地震の津波評価について（コメント回答）データ集
- ・ 浜岡原子力発電所 基準津波の策定のうち歴史記録及び津波堆積物に関する調査について（コメント回答）
- ・ 浜岡原子力発電所 基準津波の策定のうち歴史記録及び津波堆積物に関する調査について（補足説明資料）
- ・ 浜岡原子力発電所 新規制基準適合性審査 指摘事項リスト

時間	自動文字起こし結果
0:00:02	はい。規制庁のスガヤです。それではですね、これから浜岡発電所の
0:00:08	基準津波の策定のうちプレート間地震の津波評価についてのコメント回答と、 あと、
0:00:18	歴史記録及び津波堆積物に関する調査についてのコメント回答のヒアリング の方始めたいと思います。よろしくお願いします。
0:00:30	中部電力アマノです。よろしくお願いいたします。前回 3 月 24 日に 2 回目のヒ アリングをいただきまして、透磁率確認いただきました。その中で特にコメント 回答のNo.2 のところで、最終的な評価結果まで含めて、
0:00:47	しっかりと当社としての回答とするように、整理をして参りましたので、改めて 今日ご説明をさせていただきたいと思います大体こう説明時間 35 本ほどいた だきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。
0:01:06	中部電力の加藤です。
0:01:09	浜岡原子力発電所基準津波策定のうちプレート間地震の津波評価についてコ メント回答資料説明します。
0:01:16	2 ページ目に本日の説明内容を記載しています。
0:01:20	本資料では黄色で示しますプレート間地震の津波評価に関するコメント回答 について、前回 3 月 24 日のヒアリングでいただいた御確認事項を踏まえた変 更箇所を中心に説明します。
0:01:33	3 ページには、後ろにありましたプレート間地震の津波評価を全体概要を頭に 持ってきております。
0:01:39	左の痕跡再現モデルの検討から検討波源モデルの設定概略パラメータスタデ ィ、詳細パラメータスタディに至るまでの流れと最終的な評価結果をお示して います。
0:01:51	左下側に黄色の波線破線で囲っているモデルが今回のコメント回答に伴って 追加したケースになります。
0:01:59	4 ページから 7 ページに、これまでの審査会合でいただいたコメントの一覧表 をお示しして、8 ページに前回第 920 回審査会合でのコメント一覧表 をお示ししています。
0:02:11	今回はNo.1 及びNo.2 コメント回答の内容を主に修正しましたので、その修正 箇所を中心に説明いたします。
0:02:20	9 ページは目次です。
0:02:22	10 ページから、No.1 コメント回答広域の沿岸域を対象とした波源モデルについ て説明します。

0:02:29	前回ヒアリングからの修正点ですが、コメント回答のわかりやすさの観点から、No.1 コメント回答の中で、広域の沿岸域を対象とした痕跡再現モデルと検討波源モデルCの両方の説明をあわせて行う構成としました。
0:02:44	11 ページをお願いします。
0:02:50	コメント回答の概要を読み上げさせていただきますが、痕跡左右モデルについて敷地周辺の遠州灘沿岸域の津波に着目し、南海トラフで発生した地震のうち、遠州灘沿岸域に大きな影響を与えた既往ご自身による遠州灘沿岸域の津波痕跡高を再現した。
0:03:08	遠州灘沿岸域のコース記載へ戻るに加え、敷地周辺の遠州灘沿岸域だけでなく、南海トラフ広域の津波に着目し、東海地域何回地域の震源域が同時に破壊した既往最大規模の方位地震による南海トラフの津波痕跡高を再現した。
0:03:26	南海トラフ広域の痕跡下げモデルを検討し、両者ともに津波評価のベースとする功績再現モデルとすることとしました。
0:03:35	これに伴い検討波源モリモトについても、エンシュウは代替機の痕跡再現モデルをベースとした検討波源モデルABに加え、南海トラフ広域の痕跡再現モデルをベースとした検討波源モデルCを新たに設定し津波評価を行うこととしました。
0:03:51	一つ目の南海トラフ広域の功績再現モデルの設定については、次の 12 ページから 22 ページにお示ししていますが、前回資料から内容の変更はありません。
0:04:03	23 ページをお願いします。
0:04:15	23 ページですが、広域の津波に着目した検討波源モデルCの設定に関する検討方針になります。
0:04:22	ここでは、広域の津波に着目した南海トラフ広域の痕跡再現モデルをベースとして検討波源モデルCを設定し、津波評価を行うこととしました。
0:04:33	検討波源モデルCは南海トラフ広域の痕跡再現モデルと同じ土木学会 2016 手法持ちその手法を用いた津波評価が妥当であることが検証された検討事例における断層パラメータの組み合わせを参照し、東北沖地震型の波源モデルとして設定しました。
0:04:51	左の枠に洪積再現モデル、右の枠に検討波源モデルをお示していますが、今回各波源モデルがそれぞれの波源モデルそれぞれ矢印で結んで示すことで、モデル化の関係性を明示するようしております。
0:05:06	24 ページは検討波源モデルCの設定概要についてです。
0:05:10	左側に南海トラフ広域の痕跡採用モデルの波源図及び断層パラメータ、
0:05:16	右側に検討波源モデルCの波源とその断層パラメータをお示しています。

0:05:21	検討波源モデルCについて、断層パラメーターのうち、黄色で網かけしている面積、地震規模、滑り量ライズタイム滑り速度、浅部の破壊形態に関して、南海トラフ広域の痕跡下げモデルに対して不確かさを考慮しており、
0:05:37	表の右側に各パラメータの設定根拠を記載しています。
0:05:41	設定パラメーターのうち、特に滑り量とライズタイムについては、その右の欄の2ポツ目に記載の通り、
0:05:48	滑り量とライズタイムの組み合わせは土木学会 2016 手法の検討事例モデルを参照して設定しましたが、
0:05:55	今回国内外のM9 クラスの地震の滑り量とライズタイムの組み合わせの分析結果から、土木学会 201610 号に基づく滑り量とライズタイムの組み合わせにより津波評価を行うことの妥当性を確認しました。
0:06:10	25 ページから 29 ページには、検討波源モデルCの設定方法をお示していますが、前回から資料構成を変更しなければ内容は同じとなります。
0:06:21	30 ページをお願いします。
0:06:29	30 ページですが、今回新たに追加したページになりまして設定した検討波源モデルCの滑り量とライズタイムを組み合わせにより津波評価を行うことの妥当性を加藤ほか 2020 に基づき確認したものになります。
0:06:43	検討波源モデルABCと 2011 年東北沖地震を含む国内外のM9 クラスの巨大地震津波の滑り量とライズタイムの組み合わせについてお示しています。
0:06:56	図の左側に黄色で示す検討波源モデルCの滑り量とライズタイムの組み合わせは、
0:07:01	緑で示す当庫技師にはGyで示すその他の国内外のM9 クラスの地震の津波インバージョン結果の滑り量とライズタイムの組み合わせを上回り、
0:07:11	右上側にもう一つの黄色で示す検討波源モデルABと概ね同程度の津波を発生させる組み合わせとなっていることを確認し、
0:07:20	検討波源モデルCの滑り量とライズタイムの組み合わせにより津波評価を行うことの妥当性を確認しました。
0:07:28	31 ページは、検討波源モデルABCの滑り量とライズタイムとその基準かについて、
0:07:35	次の 32 ページには、検討波源モデルCの津波評価結果についてお示しています。
0:07:41	33 ページはまとめになります。
0:07:45	No.1 コメント回答の修正点の説明は以上となります。
0:07:51	34 ページからは、No.2 コメント回答検討波源モデルの妥当性に関する検討になります。

0:07:58	No.2 コメント回答の修正点ですが、前回ヒアリングでの確認を踏まえて、このコメント回答の中に検討波源モデルの津波評価結果のスライドを追加し、津波高の観点からも検討波源モデルの妥当性を示すという構成としました。
0:08:13	以降、変更箇所を中心に、No.2 コメント回答全体を流して説明いたします。
0:08:20	35 ページにはコメント回答の方針をお示ししています。
0:08:24	No.2 コメント回答では、下の青い矢印で示すように洪積再現モデルと検討波源モデルの設定の考え方の関係を整理したとともに、
0:08:34	赤矢印で示すように検討波源モデルAからCの妥当性を赤破線で囲んだ日本海溝において検討されたM9 クラスの津波評価手法を用いて追加設定した検討波源モデル①から③の断層パラメータの組み合わせ。
0:08:49	及び津波評価結果と比較することにより確認しました。
0:08:54	36 ページは前回ヒアリングと同様、検討波源モデルの設定の考え方。
0:09:00	37 ページには、検討波源モデルで考慮する東北沖地震において、巨大地震津波が発生した要因。
0:09:07	38 ページには、痕跡再現モデルと検討波源モデルの設定の考え方の関係。
0:09:14	39 ページには、国内外の津波事例を踏まえた検討波源モデルの設定について津波審査ガイドに照らした確認結果をお示ししています。
0:09:24	40 ページをお願いします。
0:09:30	40 ページには日本海溝の津波評価手法を用いた妥当性継承についてお示ししていますが、前回からの変更点として、それぞれの波源モデルを矢印で結ぶ等によりモデル化の関係性を示すようにしました。
0:09:45	上の箱書きですが、日本海溝において検討されたM9 クラスの津波評価手法では、その手法を用いて設定された滑り量ライズタイム等の断層パラメータの組み合わせにより妥当な津波評価となっていることが当行疑似地震津波との比較等により検証されています。
0:10:02	そこで、ここでは、右の赤枠で囲っております日本海溝において検討されたM9 クラスの津波評価手法持ち、その手法を用いた津波評価が妥当であることの検証された検討事例における断層パラメータの組み合わせを参照して、
0:10:17	検討波源モデル①から③を追加設定し、
0:10:21	検討波源モデルAからCの滑り量ライズタイム等のパラメータの組み合わせとの比較。
0:10:26	検討波源モデルAからCの津波評価結果との比較を行うことにより検討波源モデルAからCによる津波評価の妥当性を確認しました。
0:10:37	41 ページでは日本海溝の津波評価手法の設定パラメータについて説明します。

0:10:43	この 41 ページと次の 42 ページについて、前回からの変更点として、日本海溝の津波評価手法①から③及び検討波源モデル①から③の設定に関する記載を充実化させ、
0:10:57	設定こん系の紐付を行いました。
0:11:00	ここでは検討した日本海溝の津波評価手法について当方講義地震津波等の比較によって、その手法を用いた津波評価が妥当であることが検証された検討事例における断層パラメータの組み合わせをお示ししています。
0:11:15	昭和一番左の列に広域の津波に着目したモデルである日本海溝の津波評価手法①の検討事例のモデルの概要と設定パラメーター
0:11:25	その右側には敷地周辺の津波に着目したモデルとして、日本海溝の津波評価手法②及び③の検討事例のモデルの概要と設定パラメーターをお示しています。
0:11:38	また下の注釈の片括弧 1 の通り、日本海溝の津波評価手法①から③は女川原子力発電所の基準断層モデル①から③と対応しています。
0:11:49	今回、前回ヒアリングでの確認結果を踏まえ、断層面積を正確に示すなど、記載の充実化をしました。
0:11:58	これらのモデルの概要について、広域の津波に着目したモデルでは、スケーリング則の対象とする断層面積を保守的に最大限考慮して、平均滑り量を算出し、滑り量分布について、平均滑り量の 3 倍を考慮しており、結果的に津波高に影響の大きい超滑り域の滑り量が
0:12:16	約 30m のモデルとなっています。
0:12:20	一方で、敷地周辺の津波に着目したモデルでは、スケーリング則を対象とする断層面積や平均滑り量は広域の津波に着目したモデルよりもやや小さいですが、滑り量分布について保守的に平均滑り量の 4 倍を考慮しております。
0:12:35	結果的に津波高に影響の大きい超滑り域の滑り量が同じく約 30m のモデルとなっています。
0:12:43	いずれのモデルも日本海溝のプレート境界で検討されており、スケーリングの方法も同じですが、スケーリング則の対象とする断層面積は日本海溝の津波評価手法②③ではやや小さく設定されています。
0:12:58	これについて、下の注釈の片括弧 2 の通り、敷地周辺の津波に着目したモデルである日本海溝の津波評価手法②③は、スケーリング則の対象とする断層面積 10 万 7357 平方キロメートルが
0:13:13	広域の津波に着目したモデルである日本海溝の津波評価手法①の断層面積 12 万 9034 平方キロメートルよりも 2 割程度小さいことを考慮し、その断層面積を保持した上で地方上で超滑り域等の滑り量を 2 割程度割り増している手法となっています。

0:13:33	具体的には、特性化した滑り量分布のところ、日本海溝津波評価手法②③では平均滑り量Dに対して手法上で調整係数が1. 二倍されるような手法となっています。
0:13:47	次の42ページには日本海溝の津波評価手法を用いた検討波源モデルの設定概要をお示ししております。
0:13:55	ここでは日本海溝において検討されたM9クラスの津波評価手法を用いて、その手法を用いた津波評価が妥当であることが検証された検討事例における断層パラメータの組み合わせを参照して、検討波源モデル①から③を設定しました。
0:14:12	なお検討対象海域が日本海溝ではなく、南海トラフとなることを踏まえ、日本海溝テクトニクス的背景が考慮されているプレート境界の形状面積
0:14:22	沈み込むプレート運動過去の地震に基づく滑り域の位置については、南海トラフの知見を反映しました。
0:14:30	表には広域の津波に着目したモデルとして検討波源モデル①
0:14:36	敷地周辺の津波に着目したモデルとして検討波源モデル②③の設定概要とパラメータをお示ししています。
0:14:44	また青字としている箇所は41ページにお示した各手法の検討事例のモデルと異なる箇所になります。
0:14:52	検討会気が南海トラフになりますので、スケーリング則の対象とする断層面積にも南海トラフの面積を適用しており、これに伴い、青矢印で示しておりますMwは平均滑り量特性化し詐取滑り量分布を変っております。
0:15:08	また南海トラフご検討対処するため、沈み込む太平洋プレートの運動はフィリピン回プレートを考慮することとし、滑り域の位置も南海トラフの過去地震を踏まえて設定することとしました。
0:15:21	ライズタイム破壊伝播速度は検討事例のモデルと同じ60秒、2.5km毎秒としています。
0:15:29	なお検討波源モデル②③のスケーリング則の対象とする断層面積については、
0:15:34	片括弧1として記載ちゅ就職を記載しております。
0:15:38	先ほど説明しました通り、日本海溝の津波評価手法②③では、スケーリング則の対象とする断層面積が日本海溝の津波評価手法①の断層面積よりも2割程度小さいことを考慮し、
0:15:51	その断層面積を保持した上で地方上で超滑り域等の滑り量を2割程度割り増しするという手法になっておりますので、検討波源モデル②③でも同様に検討波源モデル①よりも2割程度小さい断層面積をスケーリング則の対象とする断層面積として、

0:16:09	平均滑り量算出し、手法上で超滑り域等の滑り量を2割程度割り増しするという手法をそのまま適用しております。
0:16:18	の検討波源モデル②③でスケーリング則の対象とした断層面積
0:16:23	12万124平方キロメートルは敷地から離れて敷地への影響は小さい日向灘の領域を除く南海トラフの断層面積11万9116平方キロメートルと同程度となっております。
0:16:39	43ページには、検討波源モデル①から③と日本海溝の津波評価手法の検討事例のモデルの滑り量分布を東北沖地震の津波インバージョン結果の滑り量分布と比較してお示ししています。
0:16:54	44ページが今回新たに追加したページになります。
0:16:58	検討波源モデル①から③は、その手法を用いた津波評価が妥当であることが検証された検討事例を参照して水量ライズタイム等のパラメータの組み合わせを設定していますが、
0:17:10	図に黄色の山岳で示す検討波源モデル①から③の滑り量とライズタイムの組み合わせは緑で示す東北沖地震やGyで示すその他の国内外のM9クラスの地震の津波インバージョン結果の滑り量とライズタイムの組み合わせと同等と。
0:17:26	もしくは上回っていることを確認しました。
0:17:29	また、黒丸で示す検討波源モデルABCの滑り量とライズタイムの組み合わせは日本海溝のM9クラスの津波評価手法を用いて設定した検討波源モデル①から③の滑り量とライズタイムの組み合わせと同程度の津波を発生させる組み合わせとなっていることを確認しました。
0:17:49	45ページには、各検討波源モデルの滑り量とライズタイム及びその基準化についてお示ししています。
0:17:57	46ページからは具体的な各検討波源モデルの設定について説明します。
0:18:03	前回ヒアリングからの修正点として46ページから53ページに検討波源モデルABの設定に関する説明スライドを追加しました。
0:18:13	検討波源モデルA及びBは、敷地周辺の津波に着目した遠州灘沿岸域の痕跡再現モデルをベースとして、南海トラフ及び国内外の最新の科学的知見について調査した上で、投光器新型の波源モデルとして、
0:18:28	保守的に投稿技師を含む国内外の巨大地震の発生事例を踏まえて設定しました。
0:18:34	47ページは、検討波源モデルABの設定概要についてです。
0:18:40	左側に遠州灘沿岸域の痕跡再現モデルの波源図及び断層パラメーター
0:18:45	右側に検討波源モデル瓶が考慮した分岐断層によってBはBと二つがありますが、その波源と断層パラメータをお示ししています。

0:18:56	断層パラメータのうち、黄色で網掛けしている面積、地震規模、滑り量ライズタイム滑り速度、浅部の破壊形態に関して、主ライン外気のコース記載モデルに対して不確かさを考慮しており、表の右側に各パラメータの設定根拠を記載しています。
0:19:13	48 ページからは検討波源モデルABに関する従前の資料の再掲ですが、48 ページに設定フロー。
0:19:21	49 ページに検討対象とする浅部の破壊形態、
0:19:25	50 ページに、ライズタイムの設定方針、
0:19:29	11 ページから 53 ページに検討波源モデルA、BはBツターの断層パラメータをお示ししています。
0:19:38	54 ページから 57 ページには、検討波源モデルCの設定についてお示していますが、No.1 コメント回答の再掲ですので、説明は割愛いたします。
0:19:48	58 ページをお願いします。
0:19:56	58 ページからは検討波源モデル①から③の設定についての説明スライドになります。
0:20:04	検討波源モデル①から③は、左に示します敷地周辺の津波に着目した遠州灘沿岸域の痕跡再現モデルもしくは広域の津波に着目した南海トラフ広域の痕跡菜園モデルをベースとして、右の赤枠で示す日本海溝において検討されたM9 クラスの津波評価手法を用い、
0:20:24	その手法を用いた津波評価が妥当であることが検証された検討事例における断層パラメータの組み合わせを参照し投光器地震型の波源モデルとして設定しました。
0:20:35	59 ページからは検討波源モデル①の設定についてお示ししています。
0:20:41	基本的な資料構成と内容は前回ヒアリングと同じで、
0:20:45	59 ページが設定フロー。
0:20:47	60 ページが滑り域の位置、
0:20:50	61 ページと 62 ページが滑り量分布の設定 63 ページが断層パラメータになります。
0:20:58	64 ページからは検討波源モデル②の設定についてお示ししてまして、基本的な資料構成と内容は前回ヒアリングと同じですが、
0:21:07	66 ページの滑り量分布の設定のところ、先ほど説明した通り、司法上で滑り量を 2 割程度増していることを説明していますので、次の 67 ページにその根拠を示し、
0:21:20	今回タイトルにも、滑り量の割り増しをしていることを記載しました。

0:21:26	少し飛びまして、70 ページから 75 ページまでは検討波源モデル③の設定についてお示していますが、こちらも検討波源モデル②と同じ資料構成としていて、前回ヒアリング資料から大きな変更はありません。
0:21:42	6076 ページと 77 ページは地震調査委員会司法波レシピを南海トラフに適用した津波評価についてお示しておりますが、
0:21:52	こちらも前回資料から変更はありません。
0:21:56	78 ページをお願いします。
0:22:04	うん。
0:22:05	78 ページには、各検討波源モデルの断層パラメータの一覧を挙げモデルとともにお示しています。
0:22:12	基本の一樣目の項目欄に青い色と緑色で着色しております、青が敷地周辺の津波に着目したモデル、
0:22:20	緑が広域の津波に着目したモデルになります。
0:22:23	ここからは 2 に示す検討波源モデル①から③の津波評価を実施し、左の検討波源モデルAからCの津波評価結果と比較することにより検討波源モデルAからCによる津波評価の妥当性を確認しました。
0:22:38	79 ページをお願いします。
0:22:43	前回からの変更点ですが、
0:22:46	今回 79 ページ以降に検討波源モデル①から③を含めた津波評価結果をスライドを追加しました。
0:22:54	79 ページは、外圧パラメータスタディの検討方針です。
0:22:58	ここでは赤字で示す検討波源モデル①②③を追加設定し、概略パラメータスタディを行いました。
0:23:08	80 ページは、検討波源モデルの水位上昇側の概略パラメータスタディ結果になります。
0:23:13	上の表の通り、検討波源モデルAからCの水位上昇側の概略パラメータスタディの結果、
0:23:21	各支店においてやっぱり示す評価結果が最大となる二つの基準断層モデルを設定しました。
0:23:28	続い上昇側では、基準断層モデル 1 について敷地前面、四、五及び 5 号取水槽地点が最大となり、それぞれ 17.6m、7.7m9.7mとなります。
0:23:42	同じく基準断層モデルさんについて、12 号取水槽及び 3 号取水槽地点が最大となり、それぞれ 5.3m、7.5mとなります。
0:23:52	また、下の表の通り、

0:23:54	検討波源モデル①から③の水位上昇側の概略パラメータスタディ結果は、検討波源モデルAからCの概略パラメータスタディにより選定した基準断層モデルの結果を下回ることから、検討波源モデルAからCの評価で代表できることを確認しました。
0:24:12	時 11 ページは、検討波源モデルの水位下降側の概略パラスタ結果になります。
0:24:18	水位上昇側と同様に右側の表の通り、検討波源モデルAからCの概略パラスタの結果、各地点において、青で示す評価結果が最大となる基準断層モデルを選定しました。
0:24:31	水位下降側では、基準断層モデルについて、3号及び4号取水塔時点の水位低下時間が最大となり、ともに12.6となります。
0:24:42	また下の表の通り、検討波源モデル①から③の水位下降側の概略パラメータスタディ結果は、検討波源モデルAからCの概略パラスタにより選定した基準断層モデルの結果を下回ることから、
0:24:55	検討波源モデルAからCの評価で代表できる言葉にしました。
0:25:01	82ページからは、詳細パラメータスタディについてです。
0:25:05	82ページには詳細パラスタの検討方針
0:25:08	83ページは詳細パラスタの設定条件になります。
0:25:13	それからライズタイム、破壊伝播速度、破壊開始点の設定になります。
0:25:18	前回からの変更点ですが、詳細パラスタにおけるライズタイムの設定方針を整理し、それに伴い、基準断層モデルさん、土木学会手法により設定した検討上げモデルCについてライズタイムを30秒としたケース等の津波評価を追加しました。
0:25:35	詳細パラスタにおけるライズタイムの設定方針について、国内外のM9クラスの巨大地震津波のライズタイムの推定事例に基づくライズタイムを考慮し、
0:25:45	また国内外のM8からM9クラスの地震の滑り量とライズタイムの組み合わせの分析結果に基づき、滑り量に応じたライズタイムを考慮しました。
0:25:56	具体的な設定値は表の右側にお示ししていきまして、基準断層モデル1には300秒から120秒を基準断層モデルさんでは300秒から30秒まで考慮することとしました。
0:26:10	ここで300秒から150秒のライズタイムは、国内外のM9クラスの巨大地震のライズタイムの推定値に基づき設定しています。
0:26:19	またそれより短いライズタイムは滑り量とライズタイムの組み合わせの分析結果に基づき設定しています。
0:26:26	詳細は次ページ以降で説明します。
0:26:29	左の設定方針の

0:26:32	下のポツに記載の通り、もともとの基準断層モデル 1 に検討波源モデル A では、国内外の N9 クラスの巨大地震津波のライズタイムの推定事例に基づき、基準とするライズタイム 150 秒設定しました。
0:26:47	一方基準断層モデルさん検討上げモデル資料は、土木学会 2016 手法の検討事例モデルを参照したライズタイム 60 秒を基準とし、国内外の M9 クラスの地震の滑り量とライズタイムの組み合わせの分析結果から、
0:27:02	この滑り量とライズタイムの組み合わせにより津波評価を行うことの妥当性を確認しました。
0:27:09	破壊伝播速度は 0.7 から 2.5km毎秒のケースを設定し、いずれの基準断層モデルも 2.0 を基本としています。
0:27:18	破壊開始点は、各波源モデル図に示す位置から P6-6 地点を選定設定し、
0:27:24	いずれの基準断層モデルも P2 地点を基本としています。
0:27:30	84 ページには津波インバージョンにより推定された M9 クラスの巨大地震の動的パラメーターをお示しています。
0:27:38	85 ページは、前回審査会合でお示したのですが、基準断層モデル 12 と国内外の M8 から M9 クラスの地震の滑り量とライズタイムを組み合わせの分析結果になります。
0:27:51	ライズタイムの不確かさの考慮について、滑り量とライズタイムとはトレードオフの関係にあることから、基準断層モデル位置の滑り量とライズタイムの組み合わせについて、国内外の N 値から N9 の地震の津波インバージョン結果の滑り量とライズタイムの組み合わせと比較しました。
0:28:10	その結果、黒丸で示す基準断層モデル 1 について、国内外の M8 から M9 の地震の滑り量とライズタイムの組み合わせを踏まえても、概ね保守的な設定となっていますが、
0:28:22	黄色の丸で示す通りライズタイムを 120 秒とすることにより、これら地震の発生事例を上回る設定となることを確認しました。
0:28:32	86 ページには、基準断層モデル 1 とあわせて、No.1 コメント回答に基づき、今回設定した基準断層モデルさんと国内外の M8 から M9 クラスの地震の滑り量とライズタイムの組み合わせの分析結果を示しています。
0:28:48	85 ページと同様に基準断層モデルさんの滑り量とライズタイムの組み合わせについて、国内外の M8 から M9 の地震の津波インバージョン結果の滑り量とライズタイムの組み合わせと比較した結果、
0:29:01	黒丸で示す基準断層モデルさんについて、国内外の M8 から M9 の地震の滑り量とライズタイムの組み合わせを踏まえても、概ね保守的な設定となっていますが、黄色の丸で示す通り、ライズタイムを 30 秒とすることにより、
0:29:16	これが地震の発生事例を上回る設定となることを確認しました。

0:29:21	87 ページには、洪積再現モデルと基準断層モデルと比較を示していますが、ここで 1 点訂正があります。
0:29:30	図の左側に黄色の丸で基準断層モデルさんの滑り量とライズタイムの組み合わせをお示していますが、このプロットの位置が間違っておりました。
0:29:39	正しくはその前の 86 ページの図の通り、参画でお示しています。日本海溝の津波評価手法①から③の検討事例のモデルの少し左側にプロットされますので、次回までに 87 ページの基準断層モデルさんのプロット一応正しく修正させていただきます。
0:29:57	申し訳ありませんでした。
0:30:00	87 ページですが、
0:30:02	青の丸で示す痕跡菜園モデルと黄色の丸の基準断層モデルの滑り量とライズタイムの組み合わせを比較した結果、歴史記録及び津波堆積物に基づくコース基礎再現モデルに対して保守的に国内外の巨大地震津波の発生事例を踏まえて設定した基準断層モデルは、
0:30:20	自然現象にばらつきがあることを踏まえても大きな不確かさを考慮したさせていただいていることを確認しました。
0:30:27	88 ページには、各基準断層モデルの基準ケースと滑り量とライズタイムの組み合わせを保守的に考慮したケースの滑り量とライズタイム及び早期循環についてお示しています。
0:30:40	89 ページは詳細パラスタの結果になります。
0:30:43	プレート間地震の津波評価の結果、敷地前面の最大上昇水位は基準断層モデル 1 の 20.3m、
0:30:50	第 4 号取水塔水位低下時間は、基準断層モデル 2 の 13.2 分となります。
0:30:57	90 ページは、水位上昇側のプレート間地震の津波評価結果になりまして、黄色の網掛けの太字でお示している数値が水位上昇側の各地点における最大となります。
0:31:09	下の表の検討波源モデル①から③の水位上昇側の津波評価結果は検討波源モデルAからCの津波評価結果で代表できることを確認しました。
0:31:20	91 ページは水位下降側の評価結果になりますが、つい上昇側と同様に検討波源モデル①から③の津波評価結果は検討波源モデルAからCの津波評価結果で代表できることを確認しました。
0:31:34	92 ページにはプレート間地震の津波評価のまとめを再掲しています。
0:31:40	93 ページはNo.2 コメント回答のまとめです。
0:31:45	痕跡左右モデルは南海トラフ及び国内外の巨大地震に関する最新知見を踏まえて、南海トラフの特徴を考慮して設定したモデルであるのに対して検討波源モデルは南海トラフ及び国内外の巨大地震に関する最新知見を踏まえて、

0:32:00	南海トラフの特徴を考慮するとともに、東北沖地震において巨大津波が発生した要員を不確かさとして保守的に考慮した講義新型の波源モデルであり、その設定の考え方を整理しました。
0:32:13	まだ日本海溝において検討されたM9 クラスの津波評価手法もちそう手法を用いた津波評価が妥当であることが検証された検討事例における断層パラメータの組み合わせを参照して検討上げモデル①から③を追加設定し、
0:32:28	断層パラメータの組み合わせ及び津波評価結果について、
0:32:32	検討波源モデルAからCとの比較を行いました。
0:32:36	その結果、検討波源モデルAB及び検討波源モデルCの滑り量とライズタイムの組み合わせは日本海溝のM9 クラスの津波評価手法を用いて設定した検討波源モデル①から③の滑り量とライズタイムの組み合わせと。
0:32:51	同程度の津波を発生させる組み合わせとなっていることを確認しました。
0:32:56	また検討波源モデル①から③の津波評価結果は検討波源モデルAからCの津波評価結果で代表できることを確認し、検討波源モデルAからCによる津波評価の妥当性を確認しました。
0:33:11	94 ページから 100 ページは、
0:33:14	No.3 コメント回答遷移領域を設けたモデルの妥当性についてですが、前回から変更ありませんので説明は割愛いたします。
0:33:22	102 ページをお願いします。
0:33:31	102 ページからは、No.4 コメント回答、敷地の津波堆積物の堆積標高に関する確認についてです。
0:33:39	103 ページにはコメント回答の概要をお示ししています。
0:33:43	前回のヒアリングでのご確認を踏まえ、前回までは黄色の矢印の下の異常(1)(2)の検討に基づきの文章は、箱書きの一番上にありましたが、前回ヒアリングでのご確認を踏まえてまとめとして一番下に記載するようにしました。
0:33:59	四角のところを読み上げますが、以上(1)(2)の検討に基づき、敷地の津波堆積物の堆積標高から推定される津波高は約 8 から 10mと今期再現モデルの津波計算結果約 6mとの違いは痕跡再現モデルと異なる波源の存在を示唆するものではなく、
0:34:18	堆積当時約 6000 年前の局所的な地形の影響によるものと考えられ、地形による津波増幅効果の範囲内であることを定量的に確認しました。
0:34:28	104 ページから 110 ページまでは前回から変更ありませんので説明は割愛いたします。
0:34:35	111 ページがそのまとめになります。
0:34:39	コメント回答の説明は以上になります。

0:34:42	112 ページからは、プレート間地震の津波評価をパッケージとして掲載していますが、
0:34:48	ここまで説明しましたNo.1 とNo.2 コメント回答の前のヒアリングからの修正点を反映しています。
0:34:56	また補足説明資料と、データ集につきましても、今回印刷物がお配りしていませんが、本体資料の修正に伴う記載の統一等を行い、コメント回答資料としての整合を図っています。
0:35:08	ウエイト管理指針の津波評価についての説明は以上になりまして、
0:35:12	引き続き、歴史記録及び津波堆積物に関する調査について前回ヒアリングから変更した箇所を説明いたします。
0:35:21	歴史記録の補足説明資料 92 ページをお願いします。
0:35:41	補足説明資料の 92 ページですが、
0:35:43	縄文海進期の海面高度に関して、1 ポツから 3 ポツの検討に今回新たに 4 ポツ、芝 2017、芝 2021 の後期更新世段丘の隆起評価に基づく検討加え縄文海進期の海面高度の評価を実施しました。
0:36:00	真ん中の箱 4 ポツ目に 4 ポツ目の新たに加えた検討により、縄文海進期の海面高度は現在の標高 7 から 8.5m程度と評価しました。
0:36:11	具体的には 97 ページで説明します。
0:36:18	97 ページですが、芝 2017、芝 2021 では静岡地域の後期更新世以降の隆起について、牧ノ原台地の 10 名標高等堆積年代からその隆起速度を 1 から 1.6 mmファイアと推定されています。
0:36:35	この隆起速度をもとに算出した 6000 年間の隆起量及び当時の下位水準が現在より約 1 から 1.5m高いことを加味すると、6000 年前の海面高度は現在の標高 7 から 8.5m程度と評価しました。
0:36:50	98 ページをお願いします。
0:36:55	一番下の箱書きですが、今回新たに加えて検討を踏まえても、6000 年前の海面高度は現在の標高 5 から 8.5m程度となることから、敷地周辺の縄文海進期の海面高度を現在の標高 5m程度であるとした評価は妥当なものであると考えられます。
0:37:13	当社の説明は以上になります。
0:37:19	はい。規制庁のスガヤです。ご説明ありがとうございました。
0:37:24	今回の 3 回目のヒアリングってということで、振り返りの意味でもですね、今ご説明いただいたところ以外にもちょっと確認させていただくようなことがあるかもしれませんが、よろしくをお願いします。
0:37:35	最初に私のほうからちょっと取っかかりとしてちょっとあの確認というかさせていただきたいんですけども、

0:37:42	津浪評価のほうの本体資料のほうの 3 ページをお願いします。
0:37:52	3 ページはこれプレート間地震の津波評価の全体概要っていうことで、
0:38:01	左から右のほうに流れていく感じで発生状況がわかるように一なんかでこう追跡できるようにっていうことで、今回のこの資料の中でも大事なページの一つだと思うんですけども、
0:38:15	ちょっと
0:38:16	私以前も確認したかもしれないんですけども、ちょっともう 1 回確認させていただきたいんですけど、一番左側に痕跡再現モデルっていうのがあります。二つあって遠州灘とあと下のほうが南海トラフの広域の
0:38:31	痕跡再現モデルなんですけれども、このモデル図の中に来色が塗ってある黄色と紙水色とか塗ってありますけれども、
0:38:42	その外側に廃炉の実線、
0:38:45	こう枠があります。
0:38:53	例えば 11 ページなんか見ると同じようにして、遠州灘沿岸域の痕跡再現モデルと南海トラフの広域の痕跡再現モデルっていうのも書いてあって、こっちの方なんか見ていくとこの。
0:39:05	最初の 3 ページのところにあったその外側の廃炉の太線っていうのはちょっと書いてないんですけども、何か意識していなかった使い分けされているいるんですけど、すみませんちょっと確認で教えてください。
0:39:20	はい、中堅力モリモトです。ご確認いただきました 3 ページの一番左がアマノ痕跡再現モデルの外側にあると灰色の線のこと。
0:39:33	というふうに理解しておりますけれども、ちょっとこの図が小さくて、全体的にみづらいかなということで、
0:39:44	右側の検討波源モデルで検討している領域とこの周りという波源域の範囲を左側の痕跡再現モデルのほうにも灰色の枠として記載しております、左の
0:39:59	実際の痕跡再現モデルの色がついてる波源域から右側に行くときにどれくらい大きくなっているのかっていうのがわかりやすく見えるように、左側の図にもえと廃炉で線を引いております。ちょっと線の意味合いが書いてございませんので、
0:40:16	その部分は適切に修正したいと思います。
0:40:24	はい。規制庁スガヤです。はい。わかりました。ありがとうございます。
0:40:46	規制庁サグチですけども。
0:40:48	今ちょっとスガヤのほうから確認あったんですけど、これ 3 ページに限らず、当然そのあとも出てきて、多分御社は何でしたっけ。津浪。
0:41:02	断層

0:41:05	いき、
0:41:06	多分萩いきたな。なんか多分これ使い分けていらっしやと思うんですけど、そういったちょっと何か定義みたいなものも含めて、ここが、
0:41:21	津波断層域で、
0:41:23	ここが
0:41:25	波源域ですよとか、っていうのは、とりあえずこの一番最初に3ページでこれ出ちゃってるんでそのあとでちゃんとした説明があつたりもしたりするんですけど、何かそこはわかるようにしていただけますでしょうか。
0:41:46	はい、中部電力モリモトです。基本的に今回
0:41:55	例えばですけれども15ページに、
0:42:03	南海トラフ広域の痕跡再現モデルの滑り量分布の設定ということでお示したのがありますので、こちらの周りの今の灰色の線がちょっと大きいので入れてないんですけれども、以前ご指摘いただいて、
0:42:18	ご確認いただいてその波源域と津波断層域等ということはどういう使い分けがということのご確認をいただいておりますので、
0:42:28	基本的には津波断層域というものに統一をしたつもりであります。で、先ほどの3ページの部分については、ちょっとどれぐらい大きくなったのかってのがわかりやすいようにというふうに思って記載したのになります。
0:42:43	ちょっと誤解を招くようであれば、そういう部分については削除したいなというふうに思いますんで、同じように、
0:42:54	例えば23ページ。
0:42:59	なんですけれども、
0:43:04	こちらは痕跡再現モデルから検討波源モデルに
0:43:09	現役を広げ波源津波断層教育するときに、
0:43:13	その大きさが変わる度合いがわかるように、
0:43:20	津波断層域としているところの外側にもうとこう飯を入れたりもしているところもまだございます。基本的にはこの色がついている部分が津波断層域波源域というものとして、資料中のごくについては記載しているつもりなんですけれども、
0:43:39	ちょっと図のおみ見え方は見方除く適正化という点で、僕は招くようであれば、その外側の部分のメッシュの
0:43:52	滑り量0のところメッシュがあるような部分とか先ほど3ページの灰色の部分っていうのは、取り除きたいなというふうに思っています。
0:44:02	はい。規制庁サグチです。わかりましたの基本的に御社はこの色がついているところを津浪A断層域

0:44:13	というものでも基本的には統一されているという理解でよろしいんですね。わかりました。じゃあ、そうすると、多分図がいろいろあって、今モリモト線をおっしゃったように、結構誤開が招くような図だったり、
0:44:29	する部分があったりするので、そこは御社の考え方はわかりましたんでそれがわかるように、きちんともあって適正化をして少なくとも誤解を招かないような図と、それから、
0:44:45	文言というのか、
0:44:48	なんですかね、波源域ではなくて、津波断層域という、記載にするっていうことでそこはじゃあ統一をお願いいたします。
0:44:59	空いちゅう電力モリモトです。承知しました。
0:45:07	規制庁スガヤですけども、ちょっと今のサグチの確認にちょっと関連して、そうすると具体的に例えば 15 ページのところ、
0:45:17	今、色がついているところが津波断層域ですよっていうことでしたけれども、
0:45:23	そうするとその
0:45:27	中段のところに箱書きで
0:45:29	却長がありますよね。白い白抜きのこの長方形みたいのは津波断層域で黄色の四角が滑り域で水色のマークが背景領域だよって書いてあって、そうすると、滑り域と背景領域の
0:45:45	足したものが津波断層域ですよっていうそういう理解でいいんですよね。
0:45:51	はい中部電力モリモトです。図についてはこの 15 ページにするのが一番いいのかなというふうに思っています。で、凡例については、今、それからさんおっしゃられた通りでちょっと津波岩石が白くなっているんで、わかりづらくなってしまったのかなと思うんですけど黒枠で囲んだ部分というのがあの津波断層域だというふうに表記し、
0:46:10	で、その意図で表記しておりますので、左の図で太枠で囲んだ部分、青色の部分と黄色の部分はしたところが津波断層域だというふうに長期、こちらもわかるようにさせていただきます。
0:46:24	はい、わかりました規制庁スガヤですけども、そうするとごめんなさい、これは図の見方っていうか、描き方になっちゃうのかもしれないんですけども、下の段に
0:46:34	滑り分布のそのメッシュがありますよね。太枠っていうか太線っていうと、この数字がずっと 1 から 381 から 8 っていう並んでるじゃないですか、そのところに太枠が書いてあると思うんですけども、
0:46:51	この太枠でも何かこちらになっちゃうような気がするんで、そこは何かわかるように、ちょっと工夫して帰っていただけるとありがたいんですけども、今のお

	話だと空白になってるあるのところのメッシュはあの津波断層域ではないって いうことだから、
0:47:07	この水色のところと黄色の枠の
0:47:11	塊のところにも人訳が来るような、そういうイメージでいいんですかね。
0:47:18	はい、合格に中部電力の森です。僕に言う通りですので、そのように修正させて いただきたいと思います。
0:47:25	はい。規制庁スガヤです。はい。わかりました。ありがとうございます。
0:47:33	すいません。規制庁クマガエですので正当。
0:47:37	今の話で色がついてるところが、
0:47:40	津波波源域だということだったんですけども。
0:47:44	例えば 29 ページを見ていただければと思うんですけども。
0:47:48	検討波源モデルCの設定として、
0:47:52	示されているところで、
0:47:55	この
0:47:55	津波波源域全体ということで、やはり側の表の中では面積が 14 万幾らと書いて あるんですけども。
0:48:02	これはつまり、右の
0:48:04	色がついてる部分だけを
0:48:07	抜き出して設定したのはこの面積だということという御説明だったでしょうか。
0:48:17	はい、中部電力モリモトです。
0:48:19	検討波源モデルについては、津波断層域として、すべての面積、ここで言う色 がない部分も含めた面積が 14 万になっていますので、ちょっと土木学会の手 法、はちょっと特殊検討例もBもそうなんですけどちょっと特殊でして、背景領 域としては、
0:48:39	この白抜き部分も考慮して見れて面積設定をしております。なんで、この全 体に対して 14 万に対して 20%5%っていうのを設定してあって、下線部のとこ ろについては滑り量を作って、
0:48:55	がない背景領域だというふうにされておりますので、津波断層域としては 14 万というふうに書いております。ちょっとこの辺りも複雑になってしまっています ので、わかるようにしたいと思います。
0:49:11	規制庁クマガエです。
0:49:13	そうですね。ちょっと先ほどの御説明とちょっと
0:49:17	土木学会 2016 の手法によるもので違うのかもしれないんだけどその資料とし てですね、どういった津波断層域がどういったものでどういう扱いにしてるのか っていうのは、きちんと

0:49:29	定義をしてもらいなりですね分けをしてもらいなりをしていただければと思うんですけれども、
0:49:35	ちなみにこのやっぱ個々の
0:49:38	このページ、29 ページでは、
0:49:41	いろんな人の滑り量がゼロの部分も含めた面積が
0:49:46	14 万ということで、正されてるということで、それはよろしいですか。
0:49:52	中部電力アマンです。
0:49:54	28 ページをご覧いただきたいんですけど今クマガエさんおっしゃられた通りで、ここではちゃんと津波断層切手の太い線でこの範囲が入ってますということで記載をさせていただきますので、
0:50:10	その数字を 29 ページで記載しておるんですが 29 のほうが少し断層域の黒が行為がない分わかりにくくなっているのかなと思いますので、この辺り少し、修正させていただきたいと考えています。
0:50:28	町クマガエです。入ってそこはちょっとわかりやすくしていただければと思うんですが、ちょっとし、それからその現地確認なんですけども。
0:50:37	ちなみにこの 29 ページのこの面積。
0:50:41	14 万っていうのは、
0:50:43	これっていうのは
0:50:46	イトウ
0:50:47	平均応力降下量とか平均滑り量が平均滑りをとかについては、この 14 万自体を使って、
0:50:55	以内ということで※1 コミュニティーとかっていうのは、
0:50:58	ついてるんですけども。
0:51:00	例えば、
0:51:01	地震モーメントとかそこら辺については、この 14 万っていう面積を使って、
0:51:06	計算しているところで設定値をもって記載されてるってことでよろしいんです。
0:51:16	はい、中部電力モリモトです。具体的な設定を 27 ページを見ながら御説明させていただきたいと思うんですけれども、
0:51:26	土木学会の手法については、一番左の方に御指摘波源特性の設定ということで、プロセスを記載しておりますんで、中段に図があると思うんですけれども、浅部断層、
0:51:41	については別途スケーリング対象としないということで、まずは支部断層で平均滑りを出してそれを
0:51:51	滑り基調滑り域を設定するときに、浅部断層に拡張するというような手法で検討されたモデルになります。

0:52:02	浅部断層つき合いで動くということで、
0:52:06	地震動との整合を図るために、まず支部断層のほうでスケーリングをしてその滑り量浅部に拡張するというようなプロセスでやっておりますので、先ほどの14を使っているのではなくてこの主部断層の黄色の面積、10、
0:52:21	9000 平方キロメートルという数字を使ってスケーリングした上で、その二倍 4 倍の滑り量を外側に拡張するというようなプロセスとってますんで、背景領域については各長はするんですけどもその滑り量は設定しないというような手法になっています。
0:52:41	ので先ほどちょっと 28 ページのほうで色とかのご確認もございましたけれども、今のご確認の中で考えると、
0:52:53	28 ページの表の白い部分はゼロにはなってますけども背景領域であるということも定義されておりますので、まず色を塗らせていただいた上で、ゼロだよということもわかるようにするというのが一番いいのかなというふうに思っております。
0:53:08	1、
0:53:09	ご理解いただけてましたでしょうか。
0:53:12	はい、規制庁くのがですね。
0:53:14	この
0:53:15	／背景領域も全体としては 14 万幾らなんだけれども実際その
0:53:21	断層パラメーターとして
0:53:24	使ってるものは主部、
0:53:26	断層の
0:53:28	領域、
0:53:30	今、ニイされ浅部の拡張させたような数字を用いているということ。
0:53:35	だということで直接
0:53:37	滑り量がゼロに容器をについても、
0:53:40	パラメーターとしては、
0:53:42	具体的には、
0:53:44	ここでは具体的には使ってないということなんですけど、使って、
0:53:48	使ってないんであれば、
0:53:50	ちょっとこの 14 万何千とかっていう、面積自体、これパラメーター
0:53:55	設定値として示されてるんですがちょっと誤解を生じてしまうようにも思うんですけど、ちょっとそこら辺は何か、わかりやすくしていただければと思うんですけども。
0:54:10	はい中部電力モリモトです。

0:54:12	承知しました鉄塔使ってスケーリング上は先ほど 27 ページの主断層のセット、
0:54:20	面積を使っているんですけどもその隣から以下の超滑り域の面積を出したりというところでは 14 万 4000 の数字を使って計算がされておりますので、
0:54:38	これもわかりづらいんですかね。
0:54:40	そうですね。
0:54:42	主断層の面積等を全体の津波な石炭税面積と両方使ってパラメータ設定がなされておりますので、
0:54:53	両方とも必要な数字だというふうには考えておりますので、29 ページのほうでは、津波断層域全体の面積を都市部断層浅部断層それぞれの面積を記載させていただいております、
0:55:09	27 ページのほうではそのプロセスを記載させていただいているというようなところです。再度点検しまして、もう少しわかりやすくできないかということについては、検討したいと思います。
0:55:28	規制庁クマガエです。
0:55:29	ちょっとそこら辺はわかりやすくしていただければと思うんですけども、例えば 28 ページとか見ていると。
0:55:36	その超滑り域とかをすべてについても
0:55:39	一部断層約 40%としてくださいというふうにしてるんですよ。
0:55:43	全体の面積もここでは使っている。
0:55:47	る津波断層域全体の面積もこれを用いているっていうことであればちょっとそこら辺もわかるような形にさせていただければと思います。
0:55:58	はい、中部電力モリモトです。再度資料のように記載したらいいのかということを検討の上、適切にて修正させていただきたいと思います。ありがとうございます。
0:56:18	規制庁クマガエです。
0:56:20	ちなみに
0:56:21	今、
0:56:23	店頭モデルCの設定としては、
0:56:26	そういうことだったということなんですが、
0:56:29	例えば今度、
0:56:30	検討波源モデルへの設定として 51 ページのところに、
0:56:35	記載されてるんですけども。
0:56:38	検討モデルへの設定においては、
0:56:43	51 ページでは津波断層域全体ということで、14 万とか、

0:56:48	これも色がついてる部分。
0:56:52	これ、これは色がついてる部分と0の領域で両方あわせて、
0:56:57	用いてるってことですか。
0:56:59	津波断層域全体というのは、ここではどういう扱いになってるんでしょうか。
0:57:06	はい、中部電力の森です。こちらと同じでして白の部分も含めて津波断層域全体というふうに記載しております。で、こちらも
0:57:19	先ほどの検討MCと同じなんですけれども、
0:57:25	うん。
0:57:29	津波遊び全体のうち、20%と5%でAO滑り議長滑りってというのが規定されておまして、
0:57:40	ちょっと今色が塗ってないんですけれども、浅部で背景領域となる部分については滑り量ゼロとするというような
0:57:50	設定の
0:57:52	やり方というふうになっておりますので、その部分もちょっと他との整合性という観点で、適切に修正させていただきたいというふうに思います。
0:58:06	規制庁クマガエです。
0:58:07	はい。そこら辺をわかりやすくし整理していただければと。
0:58:11	思いますけども。
0:58:13	ちなみに、
0:58:15	これは地震モーメントとかっていうのも、これは、
0:58:20	面積と関係して何か対応されて計算されてるんでしょうか。
0:58:39	いません。先ほどと同じ
0:58:42	どの面積。
0:58:45	に対してスケーリングを行っているのかという御すご質問、確認でよかったですでしょうか。はい。すごい簡単にちょっと、例えば、
0:58:53	51ページと29ページちょっと見て比べたときにですねその津波断層域全体の
0:59:00	面積自体は変わらないんだけど。
0:59:02	地震モーメントとかっていうのはそれで変わってきたりとかしてるんですが、
0:59:06	ここら辺というのはどういうふうにスケーリングの関係とかどういうふうに整理されているのかなと。
0:59:12	いうのを確認できればなと思います。
0:59:26	中部電力の森です。
0:59:29	ご確認の御趣旨理解いたしました。
0:59:34	51ページの検討波源モデルAについても同じように、都市部断層での面積でスケーリングした後に浅部断層に拡大するというような手法をとっております。

0:59:46	で、なので種 51 ページの主断層のミス
0:59:52	地震モーメント、 4.5×10^{-22} 条という数字と 29 ページのほうの
0:59:59	検討波源モデルCの周部断層の面積地震モーメントを見ていただくとほぼ同じ数字になっているということは、見ていただくという。
1:00:10	見ていたことができるかなというふうに思いますんで、それに対して浅部断層認識滑り量を拡大するというので、
1:00:21	それぞれ浅部断層側にも超滑りTier中間をすべきなんかを 50 ページでは張ったりだとか、29 ページでは上滑りTEを 40%の面積で設定したりとかっていうのをしていますので、
1:00:37	この辺り拡大の仕方、面積が違いますので、全体の
1:00:45	モーメント津波断層域全体の方のモーメントとしてはそれぞれのモデルごとに異なってくるというふうに所です。
1:00:57	規制庁クマガエです。
1:00:59	やっぱりこの主部断層の
1:01:01	面積がメインでいろいろと
1:01:05	設定計算がされていて、
1:01:09	あそこそっちもそこがメインでいろいろと
1:01:12	主なパラメータにはなっているという。
1:01:15	ような理解でよろしいですか。
1:01:21	はい、中部電力モリモトです。その御理解ではつると思います。と検討波源までABCについてはそのように周部断層の面積ですけれどもした後に浅部断層に拡大するというようなやり方をしておりますので、
1:01:38	ちょっとこの辺りが南海トラフで特殊な部分でもあっておりまして、その観点も含めて、前回の審査会合で御指摘いただいたものというふうに思っていますので日本海溝側の施行では、そんな主部断層とか浅部断層ということではなく、
1:01:56	て、津波断層域全体の面積に対してスケーリングを行ってというようなやり方、
1:02:03	オオノ
1:02:04	具体的にはもうなくなると同じやり方でのそのモデルの設定も実際に実施して津浪評価を行って確認をしております。
1:02:19	規制庁クマガエです。
1:02:21	はい。
1:02:23	それで、
1:02:24	御説明の概要はわかりました。ちょっとこれもちょっとわかりやすく整理をさせていただきます

1:02:30	津波波源域の
1:02:33	派遣の関係とかですね、そこら辺もちゃんと整理をしていただければ。
1:02:40	はい。私からは以上で、
1:02:48	規制庁サグチですけど、ちょっと関連して 27 ページなんですけど、
1:02:54	これ最終的に主断層の部分と先方と断層の部分の例えば、地震モーメントを 足すと、今出されている先の 29 ページの表も、
1:03:04	地震モーメント、これなるっていう話。
1:03:08	だと思っているんですけど。そうすると 27 ページでこうフローがあって一番右 のほうにいて最終的に、モーメントマグニチュードMwの算定とかいろいろこ うあるんですけど、津浪ず、断層域全体と、これ。
1:03:24	うち主務断層でこれ、要はその 1 個左のところの合計だと思うんですけど、そ れは出てるんですけど、その浅部の
1:03:33	やつが出てなくて、多分補足にもこれおんなじ図はあるんですけど、浅部の細 かいとこだったのかなっていう、すみませんまだ私確認しきれてないだけかも しれないんですけど。
1:03:46	なので、浅部も同じように、
1:03:50	超滑り域
1:03:51	の
1:03:56	平均滑り量とか剛性率がそこから地震モーメントをだして、
1:04:02	あと、滑り域もそうかな、オダしてその合計をすると、29 ページの
1:04:12	値が出てくると。
1:04:14	いう理解でいいんですよ。ベリモトそそうだったらちょっと何か浅部のの拡 大っていうのが結局 27 ページっていうところポイントなってくるので。そういうと ころの設定方法ももうちょっと詳しく
1:04:31	示せるんだったら示していただきたいんですけど。
1:04:39	はい、中部電力の森です。設定方法についてこのフローで示していただいでい る示している通りでサグチもご理解いただいているかと思えますけれども、一 番 2 番のところでは主部断層をまずは設定していくと。
1:04:55	三番の検討波源の設定の中で土地のところで浅部断層への拡大というところ で、滑り量自体を支部と同じ滑り量浅部のほうに拡大していくというようなプロ セスをとっておりますんで、具体的には 28 ページのほうで
1:05:12	下に表がありますけれども、すぐ断層で設定した滑り量分布をそのまま浅部の ほうに拡大していったら沈み込み速度比例の分配もありますので、そのま ま下にいてないところもございますので、

1:05:28	この辺りの滑りを滑り込み速度比例の分配の話については補足説明資料のほうに載せてございますけれども、ここを
1:05:38	面積と
1:05:41	滑り量等で地震モーメントを合計して出すのが 29 ページの断層パラメータ表になってございます。
1:05:50	この辺りの算定の仕方とかそういうことをもう少し詳しくという理解でよかったですでしょうか。
1:06:02	はい。規制庁サグチです。なので、西縁部をこの 27 ページの政務っていうのもこの中にポートのBC的波源特性の設定で言うところの
1:06:13	だから、これは深部断層の場合ですけどこれのいわゆる浅部断層版みたいな、そういうのをつけていただければ助かるんですけど。
1:06:32	はい、中部電力の森です。例えば 29 ページには浅部断層のパラメータの設定はございますけれども、こちらの下のほうの浅部断層っていうところの部分も含めて、27 ページのほうに載せていただくというようなことでよかったですでしょうか。
1:06:51	規制庁されてはい。すいません。ちょっと繰り返しになりますけど、2 ポツの
1:06:57	27 ページの 2 ポツの周部何層も下に同じように、浅部断層、ちょっと資格は違ってくると思いますけど。
1:07:07	いや、それは何故かっていうとさっき言ったみたいに浅部は超滑り域網を滑り肝。
1:07:13	多分二つあるので、排気背景はないかな。
1:07:18	ないと思うな。
1:07:20	ないのかもしれないんですけど、なので、
1:07:22	言ってみれば、27 ページの 2 ポツの今の手法断層の表の上のほう超滑り域を進めていきがあって、それぞれの断層面積が定期に進めるかという御税率だっただけで地震モーメントがあるので、この二つを町すべきと。
1:07:38	滑り域の地震モーメントを合計すると、それがちゅ浅部断層の地震モーメントですよというのが何かそういう
1:07:47	のがわかるような表っていうのを追加させていただきたいっていう趣旨なんですけど。
1:07:54	中部電力の町田すいませんでして理解しました。今 27 ページの 3 ポツで浅部男性の拡大ということで、
1:08:04	滑り量そのまま浅部断層につけてます。その拡大してますというふうにだけちよっと書いてしまっておりますけれども、2 ポツと同じようにちよっと表形式でどういうふうに数字が浅部断層のほうの面積滑り平均滑り量になって、

1:08:20	地震モーメントになっているのかということが少しわかるようにちょっとこのフロ ー自体を修正させていただきたいと思います。
1:08:55	規制庁サグチですすみません、引き続きちょっと細かいとこなんですけど、47 ページでちょっとまた先ほどの届くものの方。
1:09:05	確認等、関連するんですけど、47 ページの
1:09:12	真ん中辺りのパラメータ設定の面積っていうのは、
1:09:17	どうどの面積に対応するもんなんでしょうか。
1:09:21	この 12 万という。
1:09:26	中部電力の森です。すみませんこちらちょっと統一がとれておりませんでした。 12 万というのは滑り量 0 のリブの動いた料金になってますので、14 万の面積 にちょっと修正させていった津波断層域の面積に修正させていただきたいと思 います。
1:09:46	規制庁サグチです。わかりました。なので、基本的に資料に示される面積とか も津波断層
1:09:55	域というものでも統一ということによろしいですね。もう 1 回ちょっと念押しで すけど。
1:10:03	はい、そのように統一を図らせていただきます。ありがとうございます。
1:10:29	規制庁スガヤですけれども、ちょっと話題が変わりますけれども、
1:10:34	44 ページ、すみません。
1:10:39	確認なんですけど、この今黄色のハッチをつけているところっていうのは、どう いう意味でしたっけ。
1:10:52	周辺電力の加藤でございます。こちら黄色のハッチしておりますけれども、こ の滑り量とライズタイムの組み合わせのところ、検討波源モデル①から③、 それから、検討波源モデルABCの滑り量とライズタイムの組み合わせをプロ ットしておるんですけども、
1:11:11	株脇の方にも書いてございますけれども、検討波源モデルABとこの検討波源 モデルCのこの滑り量とライズタイムの組み合わせっていうのが、
1:11:21	日本海溝のAMGクラスの津波評価手法を用いて設定した検討波源モデル① から③と概ね同等であるということを示すために、このオレンジの参加企業参 画で示した範囲を概ね示すという意味合いで概ねの範囲をこの黄色のハッチ で示しております。
1:11:41	はい。規制庁スガヤです。はい、わかりました。そうするとこの黄色い参画のプ ロットの範囲を真似てくれてるっていうことだと思いますので、なんか簡単にで もいいので、吹き出しでも何でもいいと思うんでわかるようにだけちょっと書い てもらってもよろしいですかね。
1:11:58	配置上の方で承知をしました。

1:12:14	規制庁スガヤです。あと、すみませんまた同じようなあれですけども、46 ページ。
1:12:23	まあフローチャートみたいになくなっていて、4 倍起算ばい菌には行きもしくは 1.4 倍切ってあるんですけども、何の 4 倍なのかっていうのを、
1:12:33	ほかのところのページ見ると同じようなところなんていうのかな、何なりの何倍とかって書いてあると思うんで、ここも一応念のため書いといていただいていいですかね。
1:12:48	住民の加藤です。はい。平均滑り量からの倍倍するであるということを注記するようにいたします。
1:12:59	はい。規制庁スガヤです。お願いします。
1:13:03	あと、
1:13:05	すみません、96 ページに行っていた方がいいですかね。
1:13:13	遷移領域の話が
1:13:16	書いてあります。
1:13:19	この箱書きの黒い四角が三つあるんですけど。
1:13:24	三つ目のところに遷移領域っていうのはここだよっていうのをちゃんと書いてくださってますんで下の図に行くと、赤い太線で囲ってくださっていますでここが遷移領域だよっていうことなんですけれども、
1:13:40	例えばですね、キャプションでも、一番右、下のところに、以下は遷移領域だよということでこの紫っていうんですかね、グリーンとか青のやつは遷移領域なんだっていうことはここには書いてあるんですけど。
1:13:55	185 ページの方行っていた方がいいですかね。
1:13:58	検討波源モデルとか、
1:14:03	これ検討波源モデルAですね、ABとかのあれですけども、
1:14:08	ここにも遷移領域の話っていうのは書いてあるんですけども、ちょっと 96 ページのような
1:14:15	とのその対応っていうのはちょっととれないような感じだと思うので、断り書きじゃないんですけども、何か少しく書いておいたほうが
1:14:23	読み返しときに、ちょっと混乱しなくていいかなと思いますけれども、
1:14:28	なので、80185 ページとかのところ少し高線量機器についてちょっと補足っていうかコメントっていうかつけておいていただくとありがたいかなと思います。
1:14:46	中部電力加藤でございます。承知いたしました。
1:14:54	規制庁サグチですけども、すみません、今のちょっと関連してなんですけど。

1:14:59	遷移領域の影響があるなしっていうのは、もちろん今のところで説明されているんですけど、結局、例えば 22 ページで、
1:15:12	今回追加で、広域モデルで設定されているんですけど。
1:15:18	これ遠州灘沿岸
1:15:21	もう再現モデルは、
1:15:24	するっていうところの遷移領域を設けて、
1:15:27	広域モデルは遷移領域を設けないって、何か理由みたいなのがあったんです。
1:15:39	はい、中部電力の森です。
1:15:42	遠州灘沿岸域の痕跡再現モデルで遷移領域を設けた理由については、No.3 コメント回答の中でも記載させていただきましたけれども、
1:15:57	90、96 ページですかね。
1:16:03	人っぽつう。
1:16:05	名二つポツ目ですけども、
1:16:08	実際には特性化してはいるものの、連続的に本当は断層の滑り部分というのは変化して行って、それを極端に不連続にすると津浪に悪い影響が出るんじゃないかという考え方で遷移領域を設定して、
1:16:25	おりました。で、今回結果的にその 90
1:16:31	1 ページ、100 ページで見ていただけます通り、あまり津浪の津波高を当然そうなんですけども津浪のはけなんかを見てもほとんど影響がなかったということは確認できました。で、前回、
1:16:48	の審査会合で、このナンバー3 のコメントを受けたことも含めた踏まえて、南海トラフ広域の再現モデルについては別途違う手法でやったほうがいいだろうということで、土木学会の手法を用いてやっておりまして、そちらの遷移領域が設定されない。
1:17:06	機構になっておりますので、そういう意味でもいろんな手法で確認ができていけるものというふうに考えております。答えとしては手法が違うのでそのような手法、精力を設定しているのと設定したのがあるということです。
1:17:23	はい、サグチわかりました。だから、基本的に今回の後期広域の再現モデルっていうのは、基本土木学会に準じているのでちょっと今までのと少し違う違うよっていう、そういうのもあって、
1:17:38	遷移領域もあんまり設けないし、かといって今までやってたものを専用機ありましてやっても、もう体制変わらんないんで、そこは手法の違いも含めて、今回の場合はもう専用容器を含めないと。
1:17:54	そういう理解でよろしいんですね。

1:17:59	はい中部電力モリモトです。理解の通りです。
1:18:06	規制庁スガヤですけれども、すいません今サグチの前に私ちょっとコメントというか質問させてもらったわけなんですけど、ちょっと念のためちょっと補足していくんですけどちょっと私言葉足らずだったかもしれないので、
1:18:18	96 ページのところでは遷移領域はここですよってということで、二つ書いてくださっていますよね。上の箱書きの三つ目の黒い四角の中で、滑り域と背景領域の境界部ってというのが一つと、あとその背景領域と断層、
1:18:34	の下端との境界部も整理を気にするんだよっていうことをここに書いてございます。一方で、この 185 ページのほうを見ると、
1:18:44	私今二つ言った前者のほうのことはこの左側のなんていうんすよ概念図っていうんですかね、これを見ると遷移領域ってというのが③っていうふうにして書いてあるんですけれども、先ほどの 96 ページの話でいくと、後者のほうの遷移領域ってというのは、
1:19:02	185 ページのほうを見ると、この左下の。
1:19:06	概念図見ると、左側の端のところも遷移領域になるわけだと思いますのでそういったことが何ていいんでしょうか。あまりこの図がぐちゃぐちゃとわからなくなるかもしれませんけれども、何か言葉とかで何か上手くこう
1:19:21	でもいいかもしれませんけども、ちょっと工夫して書いておいていただけると両方見たときにわかりやすいかなと思いますので混乱しないでいいと思いますので、ちょっとご検討いただければと思います。
1:19:34	はい、中部電力モリモトです。ありがとうございます。承知しました。
1:19:54	規制庁スガヤですすいませんで私からもう一点あの
1:19:58	A104 ページのほうを行っていただいていいですかね。
1:20:06	104 ページ、この敷地の津波堆積物の堆積標高に関する確認ということで検討方針ということで、上の箱書きのところに書いてあります。黒い四角が二つ書いてあって、二つ目のポツ、
1:20:22	なんですけど、多分前回でしたかね、サグチの方からちょっと質問させていただいてねということ修文されたとは思いますが、すみませんちょっと同じ観点でちょっと言葉じりとするようで申し訳ないんですけど。
1:20:35	このページはあくまで検討方針だと思いますので、黒い四角の
1:20:43	二つ目のポチのところ、ここはってということで、こういうことをするんだよってという方針を多分書かれているとは思いますが、ところがですねちょっと読み上げますね。
1:20:54	津波波源の影響ではなく、堆積当時の局所的な地形の影響によるものと考えられることを検討していうところがですね、何かこう結果ありきである。これがゴールでって何か検討していくんだってということが、

1:21:10	のようにもとれるので、趣旨としては前回とサグチのコメントと同じですけれども、質問と同じですけれども、
1:21:18	検討した結果として、
1:21:22	津波波源の影響ではなく、堆積当時の局所的な地形の影響によるものと考えられるっていうことは御社が言いたいんだと思いますので、そこは若干これは先走ったような書き方になってると思いますので、ちょっとそこは工夫が必要かと思えますけれども、
1:21:41	はい、中部電力のナガマツです。当庫検討方針なのにちょっと結論までも先に書いてしまっているのが気になるということでしたので、そこはちょっと切り分けて整理して確認いたします。
1:21:54	はい。規制庁スガヤです。はい、すいません、お願いします。
1:22:45	すいません規制庁のミチグチです。
1:22:47	すみません、42 ページのところなんですけれども、
1:22:54	特性化した滑り量分布のところでは面積比率があると思うんですが、おそらく 41 ページの過去の日本海溝の津波評価手法を
1:23:04	用いたものだと思うんですけれども、この面積比率の決め方って何か参考にしました。
1:23:12	分権というか、何か既往の研究ってあるんでしょうか。あったらちょっと教えていただけますか。
1:23:24	はい、中部電力の森です。面積比率とおっしゃっているのは、
1:23:32	4、41 ページで言うところの
1:23:37	45 人。
1:23:39	はい、すみません、41 ページと 42 ページ同じだと思うんですけれども、
1:23:44	それぞれのモデルで面積比率括弧B席ってあって、超滑り域が、
1:23:50	広域の検討波源モデル①のほうだと、蒸気滑り 15%とかをすべき金を 10%で、
1:23:58	検討波源モデルにとかの方だと超滑り域が 5%とか設定されてると思うんですけれども、
1:24:05	その設定した。
1:24:09	丁寧に使ったんでというのが、例えば、
1:24:13	検討波源モデル位置の方だったら、例えばスギノほか 2014 のものを使ったとか、
1:24:19	なんかそういう参考にしたものが、
1:24:22	あるのであれば、何を参考に策を教えてくださいたいんですけれども、
1:24:30	はい、中部電力の森です。

1:24:32	41 ページの日本海溝の津波評価手法①②③というのは、1 番目の項目のところで片括弧 1 で記載しておりますけれども、第 778 回の女川原子力発電所の津波評価の基準断層モデル①から③、
1:24:51	参考にさせていただいたものになりますんで。
1:24:55	ミチグチさんおっしゃる通り①については、
1:24:58	次の 3 の
1:25:00	インバージョンモデルを参考に検討されているものでAIインバージョンモデル特性化モデルですね、大きくもとに検討されているもので、②③は女川さんが独自に波源モデルをこの面積比率で設定した上で、
1:25:16	敷地周辺の津波高ってというのが再現もしくは上回るような設定ができるということを確認されているものになりますんで、No.2 コメント回答では、今回その検討波源モデルの妥当性を確認を日本海溝で妥当性が検証された。
1:25:32	検討事例をもとに確認して欲しいというような御趣旨のコメントいただいておりますので、日本海溝の先行サイトでの審査が終了しています女川原子力発電所の津波評価の手法を面積比率含めてすべるよう設定をそのまま用いて、設置
1:25:51	そして、評価を行っているという方針で検討しております。
1:25:57	はい、わかりました。ありがとうございます。
1:26:00	もう 1 点だけ、この 43 ページのほうになるんですけども、
1:26:06	ちょっと移籍比率のところに関係するかもしれないんですがそのすぐ日報詰めの各種手法による健康検討波源モデルは、それぞれの滑り量分布には少しずつ違いがあることが確認できるっていうのは、
1:26:19	検討波源モデル 123、
1:26:22	それぞれが分布が違うっていうふうな意味ですか。
1:26:31	はい、中部電力の森です。はい、御理解の通りの趣旨で記載しております。
1:26:36	わかりました。ありがとうございます。
1:26:39	あとすみませんちょっと確認なんですけど、その 43 ページの下の図で、
1:26:45	下の表で、
1:26:46	津浪津波断層域の全面積のところ、
1:26:51	①②③があって全部約 14 万キロ平方あ 14 万平方キロメートルなんですけど。
1:26:58	先ほど言ったその女川の
1:27:00	日本海溝のやつを参考にしたっていうのが多分、
1:27:20	すみませんなんか、電気が切れちゃったようなんで聞こえますでしょうか。
1:27:25	はい、すいません。

1:27:27	43 ページの下の
1:27:30	左の表で
1:27:34	モデルの津波断層域の全面積が全部約 14 万平方キロメートルで、
1:27:39	女川の評価のやつを参考にしたってことなんですけれども、右の表でいくと。
1:27:46	津浪評価書②③は、
1:27:49	多分①の約 8 割ってことで、
1:27:53	11 万平方キロメートルになってるんですけど、ここで左の
1:27:57	表は、
1:27:59	上の 42 ページを見ると、
1:28:02	約 12 万キロになるんじゃないかなと思うんですけど。
1:28:06	すみません、私の認識違いしてますでしょうか。教えてください。
1:28:23	中部電力の森です。
1:28:25	①から③、
1:28:29	津浪な先の面積自体は 14 万、すべて 14 万平方キロメートルになっておりますんで、43 ページの 42 ページのほうで名する小さくしているのはスケーリングの対象とする面積が小さくなっていると。
1:28:46	ことで、炭火力がついている波源域の目は、津波断層域の面積自体はすべて同じ面積になっています。
1:29:00	はい。
1:29:02	ちょっとすみません右のほうの女川のときは、
1:29:07	うん。
1:29:08	ここは①が 13 万で②③が、
1:29:13	約 11 万キロだと思うんですけど。
1:29:17	設定違うんでしょうか。
1:29:24	そうですね。
1:29:26	中部電力の森です。ご指摘ありがとうございます 5 億にありがとうございます。津波断層域の面積ということで、
1:29:36	ちょっと左と右で統一がとれていないかなと思いました。
1:29:42	41 ページ、42 ページに記載している通りでございます、
1:29:50	日本海溝で検討されているモデルが 41 ページでプレート境界日本海溝としてのプレート境界の面積とスケーリング則の対象としての面積がございますので、42 ページのほうで、南海トラフデータ
1:30:05	のプレート境界の面積とともに、スケーリング則の対象とする面積がございます。
1:30:14	ちょっとこの辺りを 43 ページのほうに、どのように整理するのか。

1:30:19	いいですね。
1:30:23	やっていることは同じになりますので、
1:30:27	標記については少し検討させていただきたいと思います。
1:30:35	わかりました。すみません御確認をお願いします。
1:30:39	私からは以上です。
1:31:21	規制庁サグチです。ちょっと私から細かいことっていうのが
1:31:26	ちょっと資料の
1:31:28	わかりやすさとか、そういうことも含めてですね。
1:31:31	幾つか確認をさせていただきたいんですけど、まず 16 ページ
1:31:38	2、一応今回、
1:31:41	広域の
1:31:43	痕跡再現モデルの設定ってあって確かに経過パート見ると、ある程度
1:31:51	土木学会とか間のこれ計画ですよ。
1:31:55	これに
1:31:56	範囲に入っていますし、
1:31:59	全体的に見ると、確かによく合ってると思うんですけど。
1:32:06	右、右カラー七つ名ぐらい残る赤沢とか白スガヤですかね、この辺りから何か。
1:32:15	旧新光合いがよくないようにも見えるんですけど、この辺りって何か考察みたいなことをされてます。
1:32:45	中部電力の森です。
1:32:48	演習などの具体的な痕跡との比較は 21 ページ。
1:32:55	に
1:32:57	ございまして、
1:33:01	ここでちょっと先ほど、
1:33:09	サグチさんが言われたの。例えばの趣旨や白須賀の津波痕跡高がちょっと飛び出ている部分とかあると思うんですけど、
1:33:20	21 ページのほうで言うと、まるで放映が書いてありまして浜松の左側で 10m 弱ぐらいのところの一つ丸があるかと思imasuので、ここと
1:33:32	御苦労
1:33:34	もしくは青の線、もちろんの痕跡作業も出向き併記しておりますけれども、そことの違いになってますんで、遠州灘については、
1:33:47	信頼性がある記録っていうのは法自身はなくなってですね、なので、から信頼度でいえばAからDまでのあるものについては記載をさせていただいているという中で、

1:34:00	このマルのところ、10m弱の丸の部分、白須賀の部分については、
1:34:08	白須賀の街の中まで真水が入ってきたというのは記録にあるんですけども、そこ以上どこの表効果っていうのが詳しくどの地点まで入ってきたのかってのはなかなか
1:34:20	わからないような状況になってますんで、町の中ということで、まちの中心辺りまでじゃないかというのが費用の文献で
1:34:31	考察されてまして、今ある意味エリアということで、町の中心部では標高が9mだっメートルぐらいなので、そこまではとったんじゃないかということで、ここにプロットされてますんで、なかなかちょっとどこまで本来はそこまで集落の中まで宝永地震のときにこの辺りで津波が来たっていう記録が、
1:34:51	本当はなかなかないので周りなんかを見るともう少し低くなっておりましているんですけども決めていかないということで、なかなかこれを否定できない。
1:34:59	ので。今は文献に従って9mという数字をそのまま使っているというところですので、もしかしたらもう少し低いのかなというところあるかもしれないんですけども、
1:35:11	このように少し本籍再現モデルからは離れたところにもプロットされているとただ全体回りを見ると、そこまで高くなかったんじゃないかなというようなことは考えております。
1:35:24	以上です。
1:35:26	サグチです。わかりました。一応こういふ何か考察をされているということなんか、とりあえずわかりました。次に2020ページなんですけど。
1:35:38	これ沈み込み速度を考慮しないモデルとするもので比較結果なんですけど、これ別に
1:35:46	なんかこうしろ交渉力っていうわけじゃなくてちょっとこれ教えていただきたいんですけど、これがプレートの沈み込み速度を考慮したモデルが再現性が良好であるっていう、その何をもって料高騰という判断をされているの。
1:36:03	が、ちょっと教えてください。要はそのクライテリアですよ。
1:36:10	例えば今で言うと、
1:36:12	沈み込み速度を考慮したモデル系は1.0が1点。
1:36:18	これに対して、例えば系で言うんだったら、多分、
1:36:23	1に近ければ近いほど多分よくて、
1:36:26	っていうかパートタイム小さければ、
1:36:29	小さいほうが当然、
1:36:32	なのかなとは思ってますけど、Kだけで見ちゃうと、プレートの沈み込み速度を考慮しない1.8 銘柄のところ、1.01 っていうのは、

1:36:43	ただし(イ)1.37なので、その辺り何を持ってこっちのほうが、今のモデルのほうが再現性が良好である。
1:36:53	というふうに
1:36:55	考えられているのか相当のちょっと理由を教えてください。
1:37:02	はい、中部電力モリモトです。基本的には経営は滑り量の項では平均応力降下量を変えて滑り量書いておりますけれども、それを変えると全体的に上がったたり下がったりしますので、基本的には μ のほうで転籍以降ということで、青色の沈み込み速度を考慮したモデルのほうが、
1:37:22	再現性がいいんじゃないかというふうに考えてますんで、この検討については遠州灘沿岸域のほうでもやっております、141 ページ。
1:37:33	なんですけれども、
1:37:49	こちらは以前の再掲になりますけれども、同じように沈み込み速度を考慮した場合等を考慮しない場合ということで、どちらが痕跡との合いがいいかということで検討したもので、アマノ計自体は大きさを変えれば変わっては、
1:38:06	ますけれども、 μ について、積み込み速度考慮した方が成績がいいということで、こちらの設定するほうがいいんじゃないかというような分析をしています。
1:38:17	それと、債権になるのはちょっと載せておりませんでした、139 ページの方。
1:38:30	こちらを遠州灘のほうで説明させていただきましたけれども、
1:38:35	過去の地震の滑り量分布っていうのが
1:38:40	右側二つですけれどもそれに対して沈み込み速度プレートの沈み込み速度の分布、
1:38:46	対極的には大体
1:38:50	結構としてあって来てるんじゃないかということで、下の表にまとめております。黒い色で書いている各領域のプレートの沈み込み速度と各領域の痕跡再現モデルの滑り量をプロットしたもので傾向としてはすべて沈み込み速度の分布に従った、
1:39:08	訂正口頭での滑りど分布の傾向があることで、この辺りを含めて、
1:39:15	チーム込み速度の考慮して滑り分布を設定することの妥当性を確認しているのです。こちら南海トラフ広域のモデルでも同じだというふうに考えています。以上です。
1:39:28	はい。昨日わかりましたもので基本的には
1:39:33	Upperですね、ばらつきのほうを基本的に重視をするかといって、KKの方がそんなに大きく違わないんで、その辺も含めて判断をしている。
1:39:47	そういう
1:39:48	まず理解でよろしいですね。

1:39:51	ちょっとごめんなさい引き続きこれちょっとお願いベースになるかもしれないけど、21 ページなんですけど。
1:39:56	これ
1:40:00	遠州灘沿岸域の痕跡再現モデルとそれカラー広域の今世紀再現モデルの比較をされていて、ほぼほぼその遠州灘沿岸域
1:40:12	というかこの東海地域のところに着目をするとはほぼ同じですよ。
1:40:21	されているんですけどちょっとこれお願いなのは、21 ページの下で、
1:40:25	稜両者の津波高との比較で、これ、ごめんさ黒と青って見づらくて、特に白黒とかにしちゃうと全くわかんなくなるので、できるだけわかるような議論に変えていただきたいのと、
1:40:41	できれば両者の
1:40:44	これさ、さっきのと一緒ですけど、K がもし示せるんだったら、それも一緒に示していただきたいんですけど。
1:40:55	はい、中部電力の森です。承知しました色についてはもう少しわかる目の色で違いがわかるようにいたします。また経過／も併記する両者ともに載せるようにいたします。
1:41:08	はい、すみませんよろしく申し上げますで引き続きなんですけど、77 ページで、
1:41:13	これも
1:41:15	教えていただきたいというかちょっとオオノせていただきたいんですけど、77 ページでこの 11.3 メーターですね。
1:41:26	方出した。
1:41:28	地震調査委員会 2020 の
1:41:33	メータースタディのモデルっていうのは、どういうモデル化。
1:41:37	ていうのを、できれば載せていただきたいんですけど、それは可能ですか。
1:41:49	はい、中部電力の森です。承知しました。
1:42:19	はい。規制庁サグチです。引き続きですけど、ちょっと補足捕捉というのが今回ちょっとなかったもので、前回の 3 月 24 日の、もう
1:42:31	ヒアリングの補足のところになるんですけど、36 ページで評価点を示していたいてるんですけど、敷地前面のところ、
1:42:42	もうちょっと詳しくですね。
1:42:46	今、
1:42:48	この防波駅の
1:42:51	前面というか、こう線なのか。
1:42:54	面積の面と面っていうのか、しかも改良もモリモト殿。
1:42:59	ところってどういう形で組み込んでいいのかっていうのわかる形で例えば

1:43:06	もうちょっと太い線でこの位置が敷地前面なんですとか、この範囲ですよってというのがちょっとわかるようにしていただきたいんですけど、それ、今の少なくとも図で見る限り今後改良モリモトども、
1:43:22	防波壁も含めて
1:43:25	前というか、前面の洗浄の
1:43:30	評価点っていう理解でいいですかそれともなんかちょっと範囲みたいな設定されているんですか。
1:43:57	中部電力の
1:44:00	中部電力の森です。一等 80。
1:44:03	補足説明資料のと 89 ページ。
1:44:06	お願いします。
1:44:20	こちら濃縮放水の評価時点ということどこを処方せん含めてどこ評価地点したらいいのかというときにコメント回答でつけさせていただいた資料になりますので、敷地前面ということで、敷地のとても里道含んだ前面で下の
1:44:40	断面図を見ていただきますと、汀線の部分から防波壁部分までで最も高い津浪を津波高となる地点を今敷地前面の津波高というふうに記載しております。
1:44:56	本体資料のほうでも津浪。
1:44:59	評価の最大上昇水位分布なんか見ていただきますと、いろんな時点で最大上昇水位が
1:45:06	ちょっと図は見にくいかもしれませんがが出ているということがご理解御確認いただけるかなというふうに思います。
1:45:15	例えば本体資料の
1:45:16	いうんと。
1:45:19	トリガリング 99 ページ。
1:45:22	何か。
1:45:25	見ていただきますと、
1:45:27	サグチすみません。わかりましたのなので、よろしいですか。基本的にその補足で言う 89 ページで赤の。
1:45:38	→でしかもその敷地側に。だからこの範囲ってということでよろしいんですよ。ちょっと申し訳ないんですけど、であればちょっとその範囲範囲として何かこうハッチングをかけるとかですね。
1:45:53	この 89 も先ほど言った 36 ページも、
1:45:57	なんですけど、この範囲だよってというのがわかるような形でちょっと示していただきたいと思います。
1:46:07	はい、中部電力の森です。承知しました。

1:46:15	はい。あとごめんなさい、本当に細かいことなんですけど、補足の同じように186 ページで、
1:46:23	これって、
1:46:26	内閣府の最大クラスモデルの水位下降側の影響検討と。
1:46:31	て書かれてるんですけど。
1:46:34	これってそうそんな位置付けでしたっけ。
1:46:48	180
1:46:50	184 ページ。
1:46:53	うん。ごめんなさい、186 ページ。
1:46:58	その前っていうのは内閣府の最大クラスモデルで今どういう敷地でどういう推移になるかというのを確認をしたのがずっとあるんですけど。
1:47:08	THAIタイトルっていうか 186 ページ。
1:47:13	5-2、内閣府の最大クラスモデルの水位下降側も、
1:47:18	今日、
1:47:19	検討影響検討っていう
1:47:22	何かあれでしたっけ。
1:47:24	しかもそれはそれについて、この概略パラスタもうなんかした上でやってるんです。
1:47:31	単純にこの 185 ページにあるように、ケース⑧っていうのが、水の
1:47:39	下降側、要は低下時間が一番実は長く
1:47:43	なってるんですけどっていうだけで、
1:47:45	この 186 ページ 187 ページのちょっと位置付けがよくわからないんですけど、今、
1:47:53	そう。
1:47:55	はい、中部電力の森です。186、187 はコメント回答をして
1:48:01	内閣府の低下の影響検討したときにそれを踏まえてこのようにやりますという所がちょっと残ってしまっております。現在の補足説明資料いただくような資料となっていると思ってますので、この部分からはちょっと別に取り除きたいというふうに
1:48:19	はい、サグチわかりましたちょっとちょっとよくわからなかったの、聞きただけですけど、すみませんありがとうございます。
1:48:54	規制庁のスギノです。
1:48:56	すいません前回前々回出てなかったの、ちょっと基本的なこと聞かかもしれないんですけど。
1:49:04	41 ページ。

1:49:07	お願いしたいんですが。
1:49:09	ここに示されている三つの数も出るの。
1:49:16	いろんなパラメーター
1:49:18	一番わかりやすいのがプレート境界の面積とかいって、日本海溝って書いてるんですけども。
1:49:25	これは、
1:49:28	女川、東北電力が女川のときに想定したモデルをここに記載しているという。
1:49:36	意味合いですか。
1:49:43	はい、中部電力の森です。
1:49:46	東北電力が女川原子力発電所の津波評価で日本海溝の最大の面積というのを検討されておりますので、その面積が資料確認すると12万9034平方キロメートルというふうになっておりますので、
1:50:02	日本海溝のプレート境界の面積としてその面積を記載させていただいております。
1:50:09	はい、わかりました。
1:50:10	それでその次の42ページっていうのが、
1:50:15	皆さんの南海トラフに
1:50:18	方法、方法論を適用すると、こんなふうなパラメーターの
1:50:24	設定の仕方になりますっていう、
1:50:27	ことごの理解ですかね。
1:50:33	はい、中部電力の森です。はい、おっしゃる通りです。
1:50:37	規制庁のスギノです。ありがとうございます。
1:50:40	それとすみません42ページの
1:50:43	左の列の広域のっていうところの破壊伝播速度の説明あったときに、
1:50:51	僕の聞き間違いかもしれないんですけど、ここには2kmと書いてるんですが、2.5キロっていう説明があったように思うんですが、
1:51:02	以下、
1:51:03	正しくはどちらでしょうか。
1:51:10	はい。
1:51:16	はい、中部電力の森です。こちらに記載の通り2、
1:51:21	検討波源モデルでは2.2kmという数字で検討しています。後段の詳細パラメータSARRYのところでは2.5という、検討も行っていきます。
1:51:34	わかりました。ありがとうございます。
1:53:55	はい。
1:53:57	規制庁サグチですけど、

1:54:01	ちょっと今のところと関連してもう1点だけ細かいところは確認なんですけど、この42ページの
1:54:08	剛性率ってこれどこから持ってきていらっしゃいます。
1:54:14	。
1:54:20	はい、中部電力の森です。剛性率も41ページと同じ値を使っています。孫成立もというか、平均応力降下剛性率と含めて滑り量設定の手法については41ページと同じものを使っているというところです。
1:54:40	はい。
1:54:41	サグチ損ねましたのでまあわかりましたので日本海溝とところ同じ値という理解でよろしいですね。
1:54:52	はい、中部電力の森です。日本海溝のとか女川さんと同じ数字を使っているというところです。剛性率自体、5.0という数字は土木学会にも記載されているスケーリング町の一般値ですので、こちらを使うこと自体は問題ないかなというふうに考えています。以上です。
1:55:13	はい、そうですかわかりましたありがとうございます。
1:55:48	規制庁スガヤですけれども、
1:55:50	こちらの方からの確認以上になりますので今日
1:55:55	いろいろ質問、確認させていただきましたけれども、少し直すようなところがあると思いますので、できましたら
1:56:04	修正
1:56:06	作業終わりましたら、
1:56:07	一方いただければと思いますので、お願いします。
1:56:17	中部電力、アマノでございます。できて、再度御確認いただくという形をとるという認識でよろしいでしょうか。
1:56:35	規制庁スガヤです。はい。資料できたものをとりあえず一貫出させていただいて我々のほうでちょっと確認させていただきますので、
1:56:44	お願いします。
1:56:46	中部電力アマノでございます。承知いたしました。
1:56:53	サグチですけれども、確認させていただいて特に問題ないというかそのままいけるんだったら介護いきますので、ただちょっと日程だけは結構詰まってテーマ案件がいろんな案件が詰まって、御社の
1:57:08	時準備というか修正のでき次第っていう部分もあるんですけど、少しですね待っていただくかもしれないんですけど、いずれにしてもちょっと1回修正なりをしたものを出させていただいて、それでちょっと会合の日程とか決めたいと思いますので、よろしくをお願いします。

1:57:28	中部電力アマンでございます承知いたしましたの迅速に修正させていただいて提出させていただきます。よろしくお願いいたします。
1:57:43	はい。規制庁スガヤです。
1:57:45	それでは今日のヒアリング、これで終了したいと思います。ありがとうございました。
1:57:50	ありがとうございました。